

令和6年度横山第一小学校
学校経営計画報告書

八王子市立横山第一小学校
校長 加藤 方浩

令和6年度の学校経営計画による経営により以下のような結果を得ることができましたので、報告いたします。

○学力調査の結果

全国学力・学習状況調査の結果より、国語は、平均正答率で、東京都の平均より5ポイント、全国の平均より2.7ポイント下回ってしまった。全14問のうち2問は正答率50ポイントを切ったが、その他の12問は正答率が50ポイント以上であった。全体的には無回答率は低く、問題に取り組もうとする姿勢は感じられる。漢字の書き取り問題が全国学力調査だけでなく、市の学力調査でも正答率が低く、無回答率が高い傾向にあるので、確実に定着できるよう漢字の小テストや五十問テスト、日々の新出漢字やドリル類等の取り組み方の工夫をしていく。(同じ音訓をもつ漢字の正しい使い分けや日記等の文章を書く際に正しい漢字を使えているかを児童同士で添削し合うなど)。

算数は、C変化と関係 Dデータの活用に関する問題の正答率が東京都の平均より10ポイント以上下回ってしまった。特に、速さの問題は正答率が低かった。どちらが速いかを判断ができて、その根拠を文章で表せていないことから、問題文の内容を図に表せない、状況を正しく理解できていないことが想定される。日々の学習でも文章問題を図に表すなどの手立てを取っていく必要がある。数と計算に関しては正答率が60ポイント以上で無回答率も一桁であるため、簡単なミスが少しでもなくせるよう、朝学習の取組等の日々の積み重ねを充実させていく。

また、校内研究で2年間「主体的に学習に取り組む児童の育成 ～児童が根拠をもって解きたい！と感じる算数の授業づくり～」に取り組み、授業改善並びに指導力向上を図ってきた。しかし、学習に取り組んだり、興味や関心を持ち続けたりすることが難しい、配慮を要する児童への支援の必要性は、まだ、課題であるので、引き続き、参加意欲を高めながら、手厚く支援を行っていく。

市の学力調査の結果より、国語は、6年生は、市の平均、全国の平均ともに下回ってしまった。特に物語文や説明文の読み取り(段落相互の関係や接続詞)に関する問題の誤答率、応用問題の誤答や無回答率が高かった。5年生は、市の平均、全国の平均よりやや低いが、おおむね平均点に達していた。説明文は段落相互の関係を読み取る問題や要旨を捉える問題の正答率が低かった。一方で物語文は記述式の応用問題以外は60%程度取ることができていた。4年生は、話す聞く項目に関しては平均値並だったが、全体的に見て、ほぼ全ての項目が市・全国の平均を下回ってしまった。具体的・抽象的に考えて、自分の考えを表現す

る問題の誤答率や無回答率が高く、特に、物語文の登場人物の心情をまとめた文の空欄に入る言葉を書く問題（38.8%）や書くことにおける記述問題、話し合いを参考にして、文章を具体的に書き足す問題（49.3%）の無回答率が高かった。

課題解決のために、漢字指導に関しては、校内 OJT を通して、新出漢字や漢字練習を学級でどのように行っているかを共有し、児童の実態に即した実践的な指導に取り組んでいく。物語文・説明文指導に関しては、段落相互の関係を読み取る問題の正答率が各学年低いことから、接続詞（しかし・また・つまりなど）がどのようにときに使われているか意図的に着目させたり、掲示物でイメージをもたせたりしていく。また、要旨を捉える問題や、登場人物の心情をまとめた文の空欄に入る言葉を書く問題の正答率が低いことから、場面ごと、意味段落ごとに内容を要約させたり、文章の内容を捉えながら短い言葉でまとめたりする活動を多く取り入れることで内容理解にもつなげていく。そして、叙述をもとに内容を読み取り、自分の言葉で説明できるようにするために、登場人物の心情や筆者の考えを読み取る際に、どの文章からどのようなことを読み取ったのかを伝え合う活動などを取り入れ、話し方や伝え方の型の掲示等の工夫も行っていく。それと並行し、WEB アプリやドリルパークを活用し、家庭学習の中でも学力の定着を図っていく。

算数は、6年生は、市の平均、全国の平均ともに下回ってしまった。基礎に関しては、計算問題よりも、分数や小数に関する問題、公倍数・公約数に関する問題の正答率が特に低かった。資料から読み取る問題や応用問題は正答率も無回答率も高いことから、児童によっては、時間が足りていなかったことも考えられる。5年生も6年生同様に、市の平均、全国の平均ともに下回ってしまった。基礎問題では、10問中6問で正答率が60%を下回ってしまった。基礎的内容が身につけていない児童が多いことが判明した。また、文章題や応用問題では、正答率が低だけでなく、無回答率も高くなっていた。児童によっては、時間が足りなくて間に合っていないことや問題から何を問われているかが理解できていないことも考えられる。4年生も、市の平均、全国の平均ともに下回ってしまった。また、設問が後半になるにつれて無回答率が多くなっているため、問題を理解したり、計算したりする時間が足りていなかったことが考えられる。多くの領域で市の平均を下回っていたが、中でも、図形・文章題の立式については誤答率と無回答率が高かった。データの活用項目についてのみ、市の平均を上回ることができた。どの項目についても、基礎的内容が確実に身に付いていない児童がいることがわかった。論理的に理由を考える問題では、顕著に正答率が下がっている。そして、分数の数量的な概念の理解が難しい児童も少なからず存在していることも判明した。

課題解決のために、児童の実態に応じた授業の工夫を行っていく。特に、A・B層は自分の考えをもつことだけでなく、複数の考えをもったり、様々な考え方を自分の言葉で説明できたりするために言語活動の工夫を併せて行っていく。C・D層においては、基礎的な内容を確実に習得できるよう、初めは簡単な数字を当てはめて考えてみることや計算の順序を全員で言葉にしながら確認するなど、学習の見通しをもつことができるような手立てを工

夫していく。また、分数や小数、面積や体積などいずれも、その数がどれくらいの大きさなのかを理解していれば正解していた問題もいくつかあった。単位換算も理解できていない様子が見られるため、授業の中で実物を見せたり、数直線でイメージさせたりしながら量感を養うようにしていく。どの学年も基礎的内容の正答率が低い。前学年までの内容の復習や正答率の低い単元のプリントを複数用意して自分で取り組むプリントを選べるようにして、引き続き朝学習（横一プラス）に取り組んでいく。また、動的図形ソフトの **Geogebra** を活用し、シミュレーション的に図形を変化させることができるデジタル教材を作成し、変化を実感しながら理解できるようにしていく。

はちおうじっこミニマムの結果より、国語では、漢字の読み書き（選択）は、全体的に正答率が高め（85～90 ポイント）だった。言葉の使い方と意味の選択問題では、正しい熟語（漢字）が分かっていないという課題があった。論理的に正しい文の選択問題の正答率は 61.6 ポイントで、他の項目と比べて正答率が低かった。課題解決のために、意味調べや辞書の活用の時間を取り、読書量の確保や学年に合った本の選定を行っていく。Web アプリの「言葉の達人」を朝学習や家庭学習で取り組んでいく。それと共に、文学教材・説明文教材で、児童に読み取らせたいことを明確にし、学習を進めていけるよう、教材研究をしたり、学年で情報共有したりしながら、教員の指導力を向上していく。

算数では、単純な四則計算のミスが目立った。小数や分数に関しては、計算方法や大小比較の方法を思いつかない児童やおおよそどれくらいの量感がもつことができていない児童もいた。課題解決のために、朝学習の時間を有効活用しながら、学習したことをアウトプットしたり、これまでの学習を振り返ったりできるようにしていく。必要があれば、戻り学習等、個別に必要な問題を取捨選択していく。ミライシードの活用や課題ドリルでの復習に取り組んでいく。文章題では、問題に対し、ありえない答え（もとの長さより、切った物の長さが長くなる）を選択する児童が散見された。そのため、授業では、問題把握→自力解決という流れの間に【答えの見通し】をもつという思考を必ずもたせるように指導していく。

○基礎学力の定着

今年度より開始した朝学習の時間（横一プラス）は、子ども達に、朝から「学習に取り組む」という意識付けにつながり、1 時間目の授業から全ての子ども達が意欲をもって学習に取り組むようになっている。

○体力・運動能力等調査結果

思い切って体を動かす場面が減少している子ども達の運動の機会や運動量を少しでも確保し、様々な動きを経験できるように工夫しながら体育の授業に取り組んだ。しかし、体を動かす絶対量の減少により、男子では、「上体起こし」と「長座体前屈」と「50m 走」が全国平均を上回ったが、それ以外の種目は全て全国平均を下回ってしまった。

1 年生は、「反復横とび」が特に低い傾向にあるので、鬼ごっこ等、すばやい動きが必要な運動を多く取り入れていく。2 年生は、「20m シャトルラン」が特に低い傾向にあるので、なわとび、持久走などねばり強く続けていく運動を取り入れるようにしていく。3 年生は、

握力」が特に低い傾向にあるので、固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れていく。4年生は、「ソフトボール投げ」が特に低い傾向にあるので、ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識できるようにしていく。「5年生は、「握力」が特に低い傾向にあるので、固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れていく。6年生は、「握力」とソフトボール投げ」が特に低い傾向にあるので、固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れたり、ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識できるようにしたりしていく。

女子では、「上体起こし」と「長座体前屈」が全国平均を上回ったが、それ以外の種目は全て全国平均を下回ってしまった。1・3年生は、「反復横とび」が特に低い傾向にあるので、鬼ごっこやラダートレーニングなど、すばやい動きが必要な運動を多く取り入れていく。2年生は、男子と同様「20m シャトルラン」が特に低い傾向にあるので、なわとび、持久走などねばり強く続けていく運動を取り入れるようにしていく。4・5年生は、「握力」が特に低い傾向にあるので、固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れていく。6年生は、男子と同様「ソフトボール投げ」が特に低い傾向にあるので、ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識できるようにしていく。

○学校 2020 レガシー・・・3年、「蚕について学ぼう」「大好き八王子」、4年「湯殿川探検隊」、5年「八王子調査隊」、「SDGs ってなに」、6年「八王子大空襲」、「これからのわたし」で郷土についての知識や愛情を深め、将来の人々や地球の未来のことを考える授業を実施。

○各種アンケート調査の活用による組織的な指導の充実

市のQUと併せて、校内でも随時Google Formを活用したQUを行い、その結果を基に、科学的に個人や学級集団を評価・分析し、学級指導並びに特別支援教育の充実を図った。また、いじめ予防の早期発見にも活用した。

○地域・保護者のニーズに応える教育環境・教育条件の維持・向上

- ・図書ボランティアによる年間を通じた図書室の環境整備（本の修理や季節行事に合わせた本の展示等）
- ・花のボランティアによる年間を通じた花壇の整備
- ・学校司書を利活用した読書指導（1月末で75回を超える、読み聞かせ・ブックトーク等）の充実と図書室の環境整備
- ・児童の大きな事故ゼロ(安全管理の徹底)
- ・年度当初にエピペン研修を実施し、アレルギー事故の未然防止に努めた。
- ・2年生で、絵本作家による出前授業。
- ・3年生で、地域駐在所署員による出前授業を実施。

- ・3年生で、地域にある鈴木農園においての体験学習を実施。
- ・3年生で、地域にあるスーパーアルプスを見学。
- ・4年生で、地域在住の飴細工職人による出前授業。
- ・5年生で、八王子車人形の出前授業を実施。
- ・5年生で、地域にあるトヨタ自動車大学校を見学。
- ・6年生で、東京家政学院大学の留学生と交流。

○研究授業

- ・年間7回実施(校内研究授業4回、中堅研研究授業1回、小教研理科部研究授業1回、教師道場研究授業1回)

○校内の大きな事故ゼロ(生活指導の徹底)

- 土日の地域行事・・・青少対栲田地区地域清掃(3回実施)、親子ふれあい工作教室(風づくり)、地域防災訓練、どんど焼きに多数の教職員が参加。

○情報伝達訓練(災害伝言ダイヤル)・・・緊急時対応の確認並びに災害対応力の向上

○図上訓練への幹部教職員の参加(組織的な災害対応力の向上)

○教材研究の徹底・・・C4thの週案で常に確認

○授業観察の徹底・・・毎日1回以上実施(校長・副校長が巡回)

○週案作成の徹底・・・100%の作成

○授業公開の徹底

- ・全学級公開授業年間2回実施)

○少人数指導による習熟度別指導の徹底・・・全学年で少人数算数を実施、アシスタントティーチャーによる個に応じた指導の充実。

○授業力向上を目指した組織的な授業改善

- ・「児童が主体的に学び、「わかる」「できる」を実感できる指導法の工夫～ICTの活用を通して～」を研究テーマとし、導入や展開の工夫等について、元日本女子大学人間社会学部教育学科特任教授の野田不二夫先生を招聘し、組織的な授業改善に取り組んだ。

○リーダーシップを育む指導の充実

- ・6年生による全校朝会の挨拶と始めの言葉の発表や高学年が主体となったなかよし遊び企画・運営や委員会・クラブ活動を子供たちの自主性を生かした運営を実施。

○コミュニケーション能力の育成

- ・問題解決的な学習の推進(意図的・計画的な聞く・話す・聞き合う・話し合う場の設定、ペア学習・グループ学習の充実)を実施。

○指導計画・指導展開・板書方法・教室経営の指導

- ・日々の学年主任による指導、並びに主任教諭による教科指導と必要に応じて管理職等の授業観察後の指導を実施。

○小学校教育研究会(小教研)に、多くの教員を参加させる(オンライン研修を含めて)

○主幹教諭・主任教諭の育成・・・主任教諭に主幹教諭選考受験への促進。今年度、管理職

選考、主任教諭選考に各 1 名の合格者を輩出。

- 各種主任会への参加・・・教務主任研修会・生活指導主任研修会に 100%参加
- 教育実習生の指導教官の義務付け・・・毎年度 1 回、人材育成能力の向上の場として位置付けて実施
- 学年会の充実と必実施・・・毎日実施
- 人権尊重の教育の推進・・・校内の研修会の実施年 1 回
- いじめ防止教育の徹底・・・ふれあい月間で児童にいじめ調査アンケートを年 2 回実施
関連資料適時配布
- 体罰防止の徹底・・・校内の研修会の実施年 2 回
- 自殺防止教育の徹底・・・教育資料の配布、長期休業の前後並びに日々の児童の様子を丁寧に看取る。
- インターネット・携帯電話等の有害ネットからの被害防止教育の徹底
 - ・横山第一小学校の学校 SNS ルールの徹底、家庭への啓発と家庭 SNS ルールの確認
 - ・フィルタリングの徹底、保護者への啓発、ネットの書き込みの中傷等の防止(人権尊重)
- 道徳教育の充実・・・道徳授業地区公開講座年 1 回、その後意見交換会で、授業のねらいや児童に身に付けさせたい道徳性等を共有。
- いじめ対応の時間の充実と生活指導を主体とした情報交換の実施・・・毎週 1 回（木曜日）の 5 校時にスクールカウンセラー参加によるいじめに関する情報共有並び経過報告を実施。その後、生活指導を主体として情報交換、随時校内委員会による情報交換も実施。
- 生活指導上の課題が発生した場合の対処のスピードを上げる・・・その日に起きた事案は、その日に全職員が共有化して、その日に解決に向けた行動を起こす。（全ての事案はそのように実施し、解決を図った）
- 保護者との連携・・・学校で起きたことや児童が起こしたことは、必ず、保護者にその日に連絡をする。（その通りに実施し、解決を図った）
- いじめゼロを目指す・・・継続的ないじめゼロ、早期発見、早期対応でいじめに発展する前に解決。児童会による挨拶推進活動の取組。
- 不登校などの課題行動に対しての相談
 - ・保健室や応接室等で校長か副校長と生活指導主任・担任・養護教諭が必ず対応した。スクールカウンセラーを活用し、保護者・地域・専門機関との連携を取りながら、組織的な登校支援を行い、全力で課題解決を図った。
- 副籍交流の実施・・・3・4・5年生の 3 クラスで実施。朝の会や帰りの会の参加。学校便り等の交換。展覧会の作品掲示。図書の時間やお楽しみ会に参加。
- 特別支援教育の推進・・・任命した 3 名のコーディネーターが中心となって、特別支援教育を推進、特別支援教室専門員と拠点校の柗田小学校との連携を緊密にし、指導の充実を図った。

- 東京都派遣のスクールカウンセラーの活用・・・5年生全員とのカウンセリング・個別に児童・教員・保護者との教育相談を実施し、特別支援児童や問題行動に対応。
- 支援の必要な児童の対応・・・毎週1回（木曜日）のスクールカウンセラーも参加するいじめ対応の時間並びに生活指導夕会、学年会等、随時情報交換を行い、組織的に問題行動等の早期発見・早期対応、並びに支援を行った。
- 食育の授業を実施・・・1年生は栄養士によるトウモロコシの皮むき体験の食育授業を実施。
- 食育と行事と季節の食材との関連を校内放送等で行う・・・毎日実施。
- 避難訓練の実施・・・年度11回実施
- セーフティ教室の実施・・・年度1回実施
- 一斉下校訓練の実施・・・今年度2回実施(引き渡し1回、一斉下校1回)
- 警察、スクールガードリーダー、学校安全ボランティア、PTAの見守りとの連携協力を進め、児童の安全を確保した。情報交換と連携協力により不審者による事件ゼロ
- 学校の教育活動を地域へ発信・・・学校安全ボランティアの募集の協力を青少対会長や町会長に依頼し、近隣の幼稚園・保育園等との連携を実施
- 学校便りの充実・・・毎月発行を実施
- 学校ホームページの充実・・・行事ごとの更新実施、「今日の給食」を通じた食育啓発
- 学校説明会の実施・・・年度2回実施
- 行事の充実・・・学校行事(運動会、展覧会を始め各種発表集会等)を学校PRの場と捉え、内容の充実を図った。
- 小中一貫教育の推進・・・相互授業参観・協議、合同あいさつ運動、交流音楽会(5年生・中学1年生)、はちおうじっ子サミット、中学校説明会を実施
- SDGsの充実と総合的な学習の時間等の実践・・・3年、「蚕について学ぼう」「大好き八王子」、4年「湯殿川探検隊」、5年「八王子調査隊」、「SDGsってなに」、6年「八王子大空襲」、「これからのわたし」の授業を実施。4年生対象の水道キャラバンや館清掃事務所による清掃車の見学とゴミ分別体験。
- 本物体験を重視した教育活動の充実・・・令和6年度文化芸術による子供育成総合事業(芸術家の派遣事業)による管打楽器を中心とした鑑賞教室を全3回実施。税務署による租税教室を6年生で実施。がん経験者によるがん教育について6年生で実施。
- 学校の窓としての事務室経営・・・副校長・都事務・市事務との連絡を密にし、事務室の様々な機能を高めた。事務執行においても迅速かつ適切な対応を図った。消耗品等を共通理解の下、有効活用の実施。学校徴収金については、適正かつ厳正な処理を実施(服務事故ゼロ)。公文書の流れ、保存等の集中管理の徹底に努めた。
- 文書管理規定に基づく管理等・・・個人情報情報は文書管理規定により適切な取り扱いを実施。提出書類等の期日厳守の徹底を実施
- スピード、コスト意識をもった効果的、効率的な予算執行・・・透明性を確保し、効果的

に予算を執行。節水や節電、裏紙の活用、全会議資料を PDF 化し、コスト削減の徹底を実施。

- 適切な施設・設備の管理・・・常に施設・設備の維持・管理を適切に実施(施設・設備に起因する事故ゼロ)、必要に応じて施設・設備の改善を実施。
- 教育公務員としての自覚と誇り・・・教員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りを持ち、法令等を遵守し、サービスの厳正に務めた。
- 法令の遵守・・・法令により、学校経営を実施。個々の勤務態様を常に明確にした。出張、旅行、研修については、副校長の命を受けて適正に実施。全教職員が保護者や地域の方々からの信頼が得られるような適切な接遇に努めた。